

## テーマ: 寿胎丸合失笑散を使った腎虚血瘀型の切迫流産に対する臨床効果

### 1. 概要:

この論文の目的は寿胎丸合失笑散を用いた腎虚血瘀型の切迫流産に対する臨床効果を確認することである。

広州中医薬大学第一付属医院婦人科の60名患者を3組(漢方組、西洋薬組、中西結合組各20名)を分け、不正出血・腹痛・腰だるい・下腹部の張りの症状に改善かかる時間、血液成分や尿HCG変化、エコーの変化、安胎にできるかを観察する。結果、表の通り有効率は、漢方組95%、西洋薬組70%、中西結合組100%であった。

寿胎丸合失笑散: 桑寄生 15g、菟絲子 15g、続断 15g、阿膠 15g、蒲黄 6~10g、五靈脂 6~10g。連続7~14日分服用。

### 2. 結果:

- \* 止血時間: 漢方組と中西結合組は西洋薬組より時間が短い。P<0.01
- \* エコーで子宮内液体暗区の消失: 漢方組と中西結合組は西洋薬組より消失の数が多い。
- \* 全員出生児は畸形なし、しかい中西結合組の1名早産し早死。
- \* 安胎成功の方の血や尿HCGが上がる。
- \* 腹痛・腰だるい: 3組の顕著な差が無い。P>0.05

表1 各グループ治療効果の比較

グループ	人数	治癒	改善	無効	総合改善率
漢方組	20	19 (95%)	0 (0%)	1 (5%)	19 (95%)
西洋薬組	20	13 (65%)	1 (5%)	6 (30%)	14 (70%)
中西結合組	20	19 (95%)	1 (5%)	0 (0%)	20 (100%)

表2 各グループ止血時間 (x±s)

グループ	参加人数	止血時間
漢方組	19	6.68±3.00
西洋薬組	14	8.89±3.10
中西結合組	19	6.63±2.52

表3 各グループ子宮内液体暗区の治療効果の比較

グループ	参加人数	液体暗区消失	液体暗区残存
漢方組	8	8 (100%)	0 (0%)
西洋薬組	7	3 (43%)	4 (57%)
中西結合組	7	7 (100%)	0 (0%)

### 3. 討論:

妊娠中の不正出血に対して、活血安胎法はどう使うのか？

《金匱要略・婦人妊娠病脈証並治》：“所以血不止者，其癥不去故也，当下其癥，桂枝茯苓丸主之。” 臨床上、繰り返す出血、色は暗色、舌も暗色或いは瘀斑等の瘀血所見があったら、活血法でエコーに見える子宮内部の瘀血が解消され、胎児への栄養が供給でき、安胎ができたという結果に繋がる。しかし、不正出血や子宮内瘀血等改善したら、活血療法は止めること。

不正出血と胎動不安の原因は腎虚の他、瘀血という標実の病理産物もあり、寿胎丸合失笑散の補腎活血法を用いることで、漢方を含む組は西洋薬組より効果があると証明された。